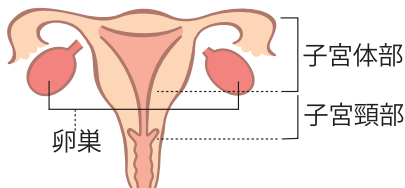


子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口に近い子宮頸部にできるがんで、40歳以上の女性の2～3%が発症しています。性交によるHPV（ヒトパピローマウイルス）感染が大きな原因とされているので、性交の経験がある人なら年齢に関係なく注意したい病気です。最近では子宮頸がんにかかる若い女性が増えています。

・症状は？

初期にはまったく自覚症状がありません。進行するにつれて不正出血やおりもの、下腹部痛などさまざまな症状があらわれてきます。



・検査方法は？

医師による問診と内診、細胞診を行います。この細胞診が、早期発見に欠かせない最も一般的な検査で、自治体などの集団検診でも行われています。へらで細胞を採取し、異型細胞があるかどうか顕微鏡で調べます。異常が認められれば**コルポスコープ（膣拡大鏡）検査**でより詳しく調べます。

・がんが見つかったら？

がんの進行状況によって「手術療法」「放射線療法」「化学療法」のいずれかを選びますが、将来妊娠、出産の希望なども含め、医師とよく話し合っ決めて決めることが大切です。

・HPVワクチン

HPVへの感染を予防するワクチンが、2009年に厚生労働省で正式に承認されました。一般の医療機関で接種できるようになり、予防効果が期待できます。